

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color
Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

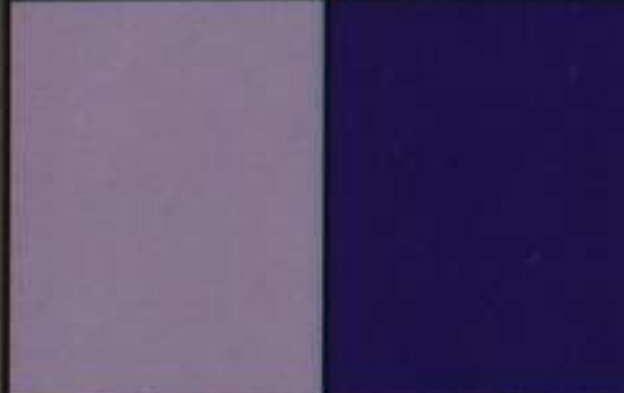
Red

Magenta

White

3/Color

Black



A

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

B

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

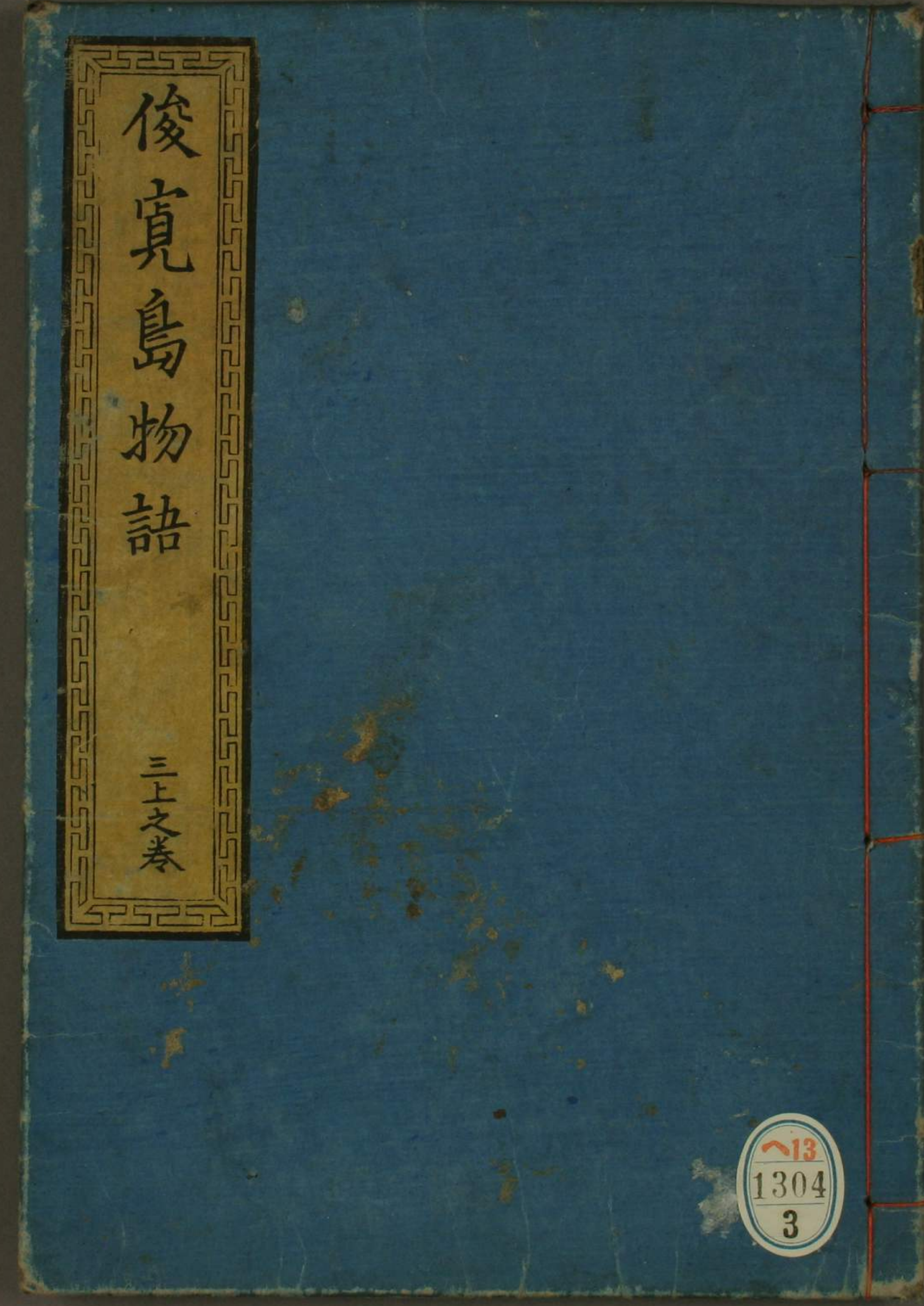
15

16

17

18

19



俊寛島物語

三上之巻

13
1304
3



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

1304
3

俊寛僧都鳴物語卷之三

東都

曲亭馬琴編次

第一套

抱影係風と

主を逢ふ

黒居蟻王が事



治養元年六月上旬俊寛成経康頼を硫黄嶋へ流しつるに六波羅入道清盛の使丹丸也尉基安ををらへぬり。二差の囚人を牢輿にに扛乗して目今西八條をゆくと罵りつ。人駭東西へ奔走を電王ををらへて力引提つ。粟田口の猿宿を走り出さる。陸の大渡り追著り。此処より。配軍ホを河原より乗せ。難波の浦まで送り。河原より二の牢輿を扛居り。丹丸尉基安の葉柳の蔭に床几を敷き。腰ある扇をさし。汗吹納む。居り。當下電王の五集する。彼此人を擡退つ。夏脱捨し。基安がほり。子孫流し。是を

百練抄卷四
治養元年六
月三日入道
相國三権法
勝寺執行権
少僧都俊寛
山崎基安
散位章細檢
非違使光衛

俊寛長三

門對唯宗信
房更資行同
康賴等為謀
之故云其
兼信房等行
後日既流送
困
本按す
物語並其
市其其兼
中賃れし至
てたれしや
又又氣流極
死のゆゑか

俊寛傳が恩顧のりよ、黒居の龜王と望みのいぬる四月のころを
し。主の使も、越前三國に逗留し、彼地より僧都陰流の縁由を供
け、珍勝も、きりゆりのけが夫人、姫君、彌君の仕方と定りぬら、あ
まゝの物の悲しく、平るもあつぬが、せめて嶋村を供つるさるるべうとい
定め、推察して、いづれも果て、涙を階窓と流し、基安原末情
の侍も、わづらふ果て、たら、燕、汝が、い、埋されど、や、恩顧の、
堂、う、と、嶋村を、召、供、さ、らん、その、憚、あり、ら、侍、都、の、ま、あ、め、と、
徑、康、賴、も、又、の、の、と、に、ま、り、ひ、汝、久、く、越、前、の、あ、り、て、今、度、の、ま、
預、り、と、只、宮、主、の、別、を、惜、し、連、坐、の、禁、を、者、ど、ら、ま、あ、り、し、志、に、
不便るも、志を一面をあはせ、福も、つが、を、り、と、許、さ、り、さ、く、と、の、あ
ふ、電、王、が、て、牢、輿、の、ほ、ろ、う、よ、ま、せ、と、う、て、物、見、の、簾、を、押、あ、げ、れ、
俊寛ハ五六十日が間、日光よ見えざり、ハ眼あらし、髪短、
く、心ひ、より、も、髭とる、み、手、指頭、鉗、を、被り、と、くれ、ハ地、獄、変相
の画、と、言、は、火、の、車、と、ま、り、れ、る、右、罪の、餓鬼、と、異、る、て、電王
と、晴を、見、あ、り、し、り、の、の、の、と、む、り、し、ら、ぬ、入、り、て、り、の、を、あ、げ、ぬ、電
王、や、ら、の、涙、を、拭、ひ、し、今、ハ、ま、ら、う、の、あ、い、は、れ、や、ら、ゆ、り、ど、曇、ら、れ、ん、使
使、を、さ、け、り、く、し、庄園、を、う、ら、廻、り、越前、三國、に、留、留、せ、り、日、初、に
と、れ、は、牛習、方師、不嶋、浦、何、が、女兒、渡海、と、す、り、と、の、早、く
父母、を、喪、ひ、て、う、ら、ぶ、ら、れ、は、環會、捨、れ、り、ひ、は、要金、三、百、兩、を
遣、ひ、果、し、其の、餘、の、け、が、そ、の、集、む、の、時、日、は、後、に、ひ
ら、る、忽、ち、地都、の、凶、吉、を、傳、へ、て、秋、の、儀、を、納、り、ぬ、と、女性、孀、居
の、恥、れ、方、を、あ、げ、ぬ、自の、悞、を、贖、め、り、ぬ、れ、ハ、既、に、必、死、と、あ、り、ひ

俊寛ハ五六十日が間、日光よ見えざり、ハ眼あらし、髪短、
く、心ひ、より、も、髭とる、み、手、指頭、鉗、を、被り、と、くれ、ハ地、獄、変相
の画、と、言、は、火、の、車、と、ま、り、れ、る、右、罪の、餓鬼、と、異、る、て、電王
と、晴を、見、あ、り、し、り、の、の、の、と、む、り、し、ら、ぬ、入、り、て、り、の、を、あ、げ、ぬ、電
王、や、ら、の、涙、を、拭、ひ、し、今、ハ、ま、ら、う、の、あ、い、は、れ、や、ら、ゆ、り、ど、曇、ら、れ、ん、使
使、を、さ、け、り、く、し、庄園、を、う、ら、廻、り、越前、三國、に、留、留、せ、り、日、初、に
と、れ、は、牛習、方師、不嶋、浦、何、が、女兒、渡海、と、す、り、と、の、早、く
父母、を、喪、ひ、て、う、ら、ぶ、ら、れ、は、環會、捨、れ、り、ひ、は、要金、三、百、兩、を
遣、ひ、果、し、其の、餘、の、け、が、そ、の、集、む、の、時、日、は、後、に、ひ
ら、る、忽、ち、地都、の、凶、吉、を、傳、へ、て、秋、の、儀、を、納、り、ぬ、と、女性、孀、居
の、恥、れ、方、を、あ、げ、ぬ、自の、悞、を、贖、め、り、ぬ、れ、ハ、既、に、必、死、と、あ、り、ひ

定めゆいびり。刀の鞘は手を切けりゆい。か。せえく嶋すむ付添
 まり。せ。憂は冊を年来の高恩を報にまると。政目はほけり
 中や。よ。ら。ゆ。く。追。逐。を。ま。ま。と。ご。も。夫。由。又。許。され。忠。由。あ。く。と。美
 あり。缺。く。死。を。公。小。自。の。清。ハ。必。し。討。て。も。え。由。さ。れ。ぬ。多。少。の。別。れ。を
 つ。ふ。せん。さ。を。形。る。死。せ。る。う。ら。う。と。あ。り。は。恨。む。千。鈔。の。涙。は。誠。え
 あり。ハ。俊。寛。由。臉。を。あ。か。ら。く。れ。や。よ。龜。王。の。く。り。子。歎。き。と。れ。汝。を
 欺。き。し。旋。終。ま。と。と。く。村。長。ホ。し。裸。ま。り。る。黄。金。も。米。も。ま。る。軍。用
 の。為。ま。り。し。よ。か。果。敢。ま。く。由。律。發。頭。頸。鉗。手。枷。は。傳。ら。し。五。穀。ハ
 さ。く。之。金。残。を。宝。と。あ。く。ぬ。嶋。守。と。る。ら。の。牙。あり。裸。せ。る。金。残。り。ま
 り。と。あ。く。と。も。塊。あ。ゆ。者。ま。り。ん。恨。を。悔。ひ。思。を。あ。く。が。一。死。と。さ。る。牙。を
 存。命。て。窵。の。前。と。子。が。ゆ。ら。が。往。方。を。志。蟻。王。よ。力。を。戮。し。て。主。の。を

と。安。く。し。せ。よ。彼。知。る。る。牢。裏。あ。り。少。將。判。官。由。坐。ら。せ。る。一。嵐。の
 木。の。葉。草。の。葉。詠。と。か。あ。り。懶。ハ。か。牙。あ。く。の。秋。る。し。と。妻。や
 子。ど。も。ハ。何。地。よ。め。り。と。必。し。中。の。悲。し。と。逢。て。忽。地。別。れ。ら。る。か。物
 を。も。あ。ひ。あ。り。し。胸。苦。し。さ。の。ま。と。あ。や。あ。ん。さ。く。帰。と。急。が
 され。ゆ。ら。ゆ。ら。木。の。龜。王。が。あ。ん。よ。ひ。さ。く。流。ま。と。く。主。の。船。出。を。止
 め。ら。ぬ。候。の。外。ハ。棚。と。あ。り。さ。の。月。の。あ。ら。り。り。り。浩。知。ハ。蟻。王。ハ。正。に
 後。と。追。逐。來。つ。群。集。の。老。弱。ハ。押。隔。ら。れ。と。さ。く。と。あ。り。と
 を。知。る。目。今。龜。王。が。自。の。恨。を。く。れ。口。鏡。を。ひ。く。さ。ら。よ。十二。分。ろ
 憤。り。を。含。ま。る。群。集。を。推。入。力。牢。裏。の。母。と。り。へ。あ。ら。ん。と
 して。是。首。彼。首。ハ。扛。居。る。牢。裏。を。一。度。ハ。擡。中。ん。と。と。蟻。王。ハ。これ

をえり。吐嗟とまがりとまぐりとまを。雜兵亦捧をりく遮り。箇
 今のもや時刻よりぬ近くもあると叫り退身揚る轎夫乃
 秋又獲とバウ見拂ひ。聽納づくもあととんべ。龜王の備より。蟻王が
 袖を引。あまふ遠うり。はあふ中面うるまこと。アふくの後より
 へり。案の前をともめあり。姫君彌君由。恙うりや在とる。といへば
 へんご声を勵し。何れか不忠の一五十一の彼知ありてをやびつと
 ぶさつひ思を志ま主家の凶変りゆありあはむ。母子の没落し
 りんをも訪ふ事。どの何の顔なりと。さへ推案しるどや。可く獸
 等し。人への見よあはべ。才よあはむ。どの物ゆも穢し。といはれし高
 く。耻ししむと。龜王腹よとえふぬく。その過言うり人ややく。ア
 恨をともまがらと。さよあうと。その懈を悔歎くよ。主君がむお

めの忠信思義の重たる。汝ひとり知ると思ふあや。といふ
 愚ろり。漫言しと。頭を砍る。割れごと。罵りて威の刃抜くまは
 蟻王のく冷笑ひ。兄弟の義の私より。君の為みの親疎を厭む。大白
 物の松刀なりと。志金石の等し。蟻王を砍ゆんや。と罵。勅も由才が
 滅といふ。どちも抜うけ。刀も舌を引るぬく。大自物の松刀なりと。切ま
 中切まどや。試むと。勢ひ猛く抜放つ。刃の下をうみ踏る。扇を以て
 受るがせが。さう。闘争ど。群集の老弱。發見怖まこと。さう。こと人
 群を拍て逃散さう。丹左衛門。信とんく。狼藉とる。あれさめよ。と制
 されば。雜兵亦五七人。夫庚よ祖忌抱見。笛を非うく。左右に引。さう。俊
 寛の昇まの。後さすふ声をうり。主やよ。血氣よ早うて。恨とる。場野
 としひ。日蔭の刃をりて。後難をありぬどや。蟻王が兄を罵るの骨肉の



丹波守尉



淀の大渡子
龜王別離
悲

のり王

のり王

人情最懼
鴛原敷
莫逼殿前
七步才

ふらふ
あつ
梅の
花を
いふ
ふらふ
ふらふ



城と志くふけりて挑むとあつん。兄弟牆上闘ぶ外侮を禦すといふ。
本一文を忘るゝ。歎。己が身とて人の是非を論じらるゝ
めりねと過ぐ改るゝ。憚とるゝ。れといふ。龍王の自の誤を贖ふ程
の功をこそよ。あつんといふ。天子も。兄か為よ。これを勸解案の前由
いふ。あつん。勸當を免とす。蟻王からく。未つゝの妻や子どもが使と
あつん。追立の官人未か。い中且くも故さぬ。いん。む。行由。びく。行
由。暇あり。今。あつ。船と弘誓。あつ。冥土の使者。い。ま。れ。行。鼻
焦熱の吐責。あ。苦。未。永。劫。捺。底。へ。活。る。か。り。落。る。と。生。ま。り。と
い。声。よ。由。遠。離。る。今。般。の。一。言。膽。よ。徹。い。兄。の。又。を。投。捨。く。同。胞。地。上
よ。殿。と。坐。し。涙。を。拭。ひ。あ。づ。り。か。且。く。り。ろ。と。由。不。改。を。擲。て。目。送。れ。が
穿。雲。の。終。昇。糸。と。く。岸。を。離。る。下。り。船。よ。蟻。王。聽。く。ま。り。ま。り。

修よ自叙せが少く恥とありたり。と親同胞由怒をわきた主君
 由憐にひらるん。老く便由る死を。養ふに及ぶと由。うらぐん
 後の辛向神花を身のある果を。あひまか時を俟く。主の及活よ
 糸りのひ。これよりけ給る。稱ぬまご勸解く。といひ果く刀を抜き
 腹へ突まんとするを。渡海に慌忙と携出胸苦しとをあり落る。涙
 物をえゆられ。放えんとするを。放らんとて。夫婦面をのりつ。送よ吻と
 ぼ息よ。いと玉るを汗より由。後りるる袖の雨。より拂く。又貞縁と
 知らぬて竿放つ。又の鞘よあきたて由。女の胸よあまう結。あび由ゆびと
 と泣死んとあひ定めゆかを。理りといひあめぬ。短と契難波江のゆ
 かる道よ踏迷ゆ。不忠の人とあひけり。とよる迹よ存令て。真愛をこ
 ころと情わの言の勢よ似く情あり。佳果がとせせり。せが。渡海ゆり

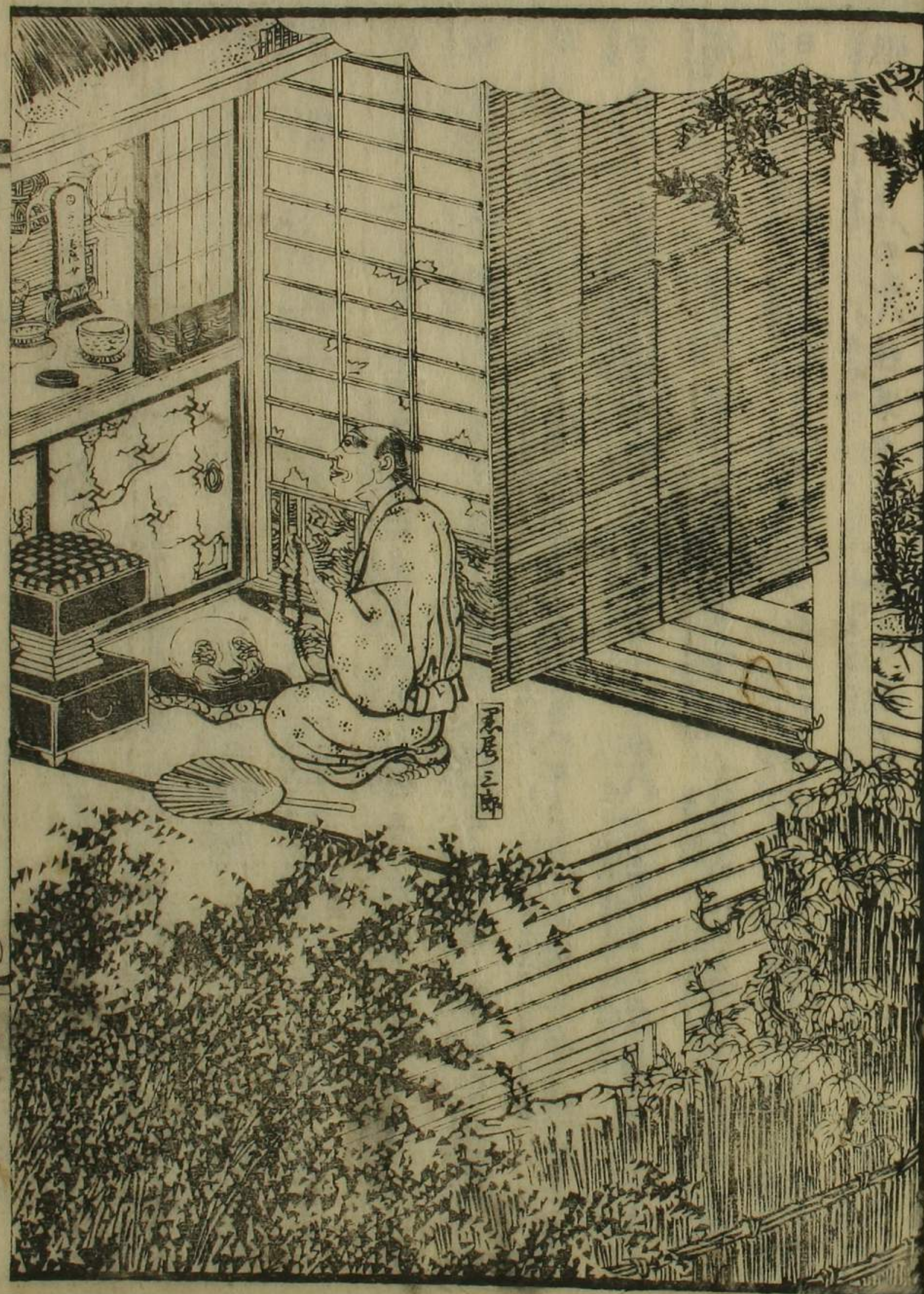
とゆふ。死ねとるるとて宣ひる。あが過世の仇人どちが。生うりて愛惜
 の祥よ怒を驚がれ。わが歎ととるよ千あらん。その恨とを改ら。うら
 とるたバ面のう。マカ牙又伏伏せぬ。うら首をうち落し主親よ
 勸解ゆら。才君の情りゆ。忽地と身ん雨後の月曇り。とゆゆるたか
 如。おん刃のありり。はらぬべ。南堂阿弥陀仏と唱ゆ果必奪せ。又
 を授け。まが。電玉を引とめ。そのこの勢をゆか。悔中。晴の羽か死
 百羽搔う。口死とゆその給る。送よ。ひ究る。後。先。ふら。むらむ
 あら。そのを殺し。とれ死ん。とら。今。さ。あ。あ。水江。に。在。る
 又の。母。あ。と。持。ま。物。ら。を。あ。比。う。京。上。り。一。日。の
 孝。由。竭。さ。い。亦。放。逸。を。懸。の。死。が。ま。と。ん。り。あ。由。の。腹
 う。く。由。打。を。く。せ。あ。由。面。を。あ。海。と。と。六。十。は。餘。る。老。の。坂。杖。と

たのしみなり。子ぶわらわ。きつりハ絶く往方あること。ひとりハ空しくあり
 ぬると。凶喜の笑ゆる毎よ。ことそ朽朽まづめ。せんと末朝の告別
 好まぐと一言るりとも。まじりて後よとて死ん。かき次早りもふると。規
 瑜せらうら点改とそもるるを。をり強とも。と宣のむるらそ喜。これ
 齡頃さむひぬる。養ふのさもこころのな。愛子を捨。と憎とて。憎
 中飽む。醜ふ。せまほ。うむおん顔。裕らぬ。牙あゆ。ゆる。び。同
 水江に生育て。親のむく子のと。暮ら。く。負。と。暮。と。く。愛。慈。ひ。ぬ。
 由縁も今ハ仇とるり。新婦との。と。門翁。と。い。ふ。も。る。る。悪。因
 縁。遮。莫。生。の中。よ。恙。る。る。面。影。を。朔。鏡。と。故。郷。の。土。と。なり。ゆ。え
 暗。越。ら。し。ぬ。門。と。も。の。伴。ひ。ぬ。と。う。ぬ。口。鏡。と。亀。王。ハ。公。操。の。母。の。こ。ころ。く
 て。目。を。拭。ひ。と。く。夫。婦。の。ろ。と。も。ふ。の。ひ。く。く。行。装。し。その。曉。は。三

園をまき。水江の里。あむ。赴。え。る。あ。と。と。六。日。の。と。め。あ。せ。砂。石。焼。か。び
 く。池。水。煎。よ。似。く。う。それ。が。赤。日。金。を。流。し。昔。松。人。を。宿。し。喝。さ。る。の。の
 盗。泉。を。擇。む。息。ふ。の。悪。木。を。厭。む。道。一。る。る。ぬ。渡。海。か。よ。の。と。疲。勞
 る。ゆ。痛。く。元。來。の。さ。ぬ。旅。る。れ。ハ。五。六。里。を。一。宿。と。し。う。く。く。水。江。よ
 著。ぬ。昔。時。雄。略。天。皇。の。二。十。二。年。秋。七。月。の。の。り。う。と。よ。丹。波。國。餘。社
 郡。水。江。の。浦。鳴。か。子。舟。よ。糸。釣。を。と。れ。海。へ。入。り。て。蓬。萊。山。よ。遊。び
 戲。ア。り。帰。り。た。忘。ま。し。り。一。百。年。を。故。郷。人。よ。や。と。ま。か。家。由。る。り。に
 世。の。孫。よ。の。ひ。ぬ。と。國。史。あ。む。載。ら。れ。よ。う。ら。ゆ。も。名。よ。あ。み。水。江。の。里。浦
 鳴。ら。る。ぬ。鳴。浦。が。その。女。鬼。る。る。渡。海。よ。拵。び。戲。ア。ら。ぬ。を。忘。ま。し
 惑。と。ある。い。龜。王。ハ。家。累。由。る。る。玉。手。箱。の。け。く。が。人。目。が。せ。たと。て
 日。由。山。の。掬。よ。入。相。ご。う。又。か。門。す。を。來。つ。と。ご。も。い。ひ。よ。便。あ。ら。ざ。れ。バ。渡

海を庭門るる。樹間よりあくま階下。繩簾を捲つ。裡のやうを張
 み又黒居之郎ハ納戸のありとあやうくく。近くあやうき着徑の木魚
 も。されバ夫婦が袖を涙の雨の漏る音うとく。ほろりと立在又且く
 のりて三郎ハ木魚打とせん声とあり立南で西方壽光大日弥陀如
 來當團氣比大明神。兩部習合和光同塵の眞助を垂れ前領
 主俊寛僧都を帰洛るる。親族妻子以ハささく。つか子ど
 等もさす。主従入主裏多南を阿弥陀仏と唱つ。齒莖を洩る蟬
 声。草もあざれ。夏の日の黄昏らうらうらう。電王これをき
 みる。いひがひるを憎しむ。あやうく。親の思高は國一
 胸若しく。えくる樹蔭は渡海也。おろし。あひはは沈め。わんざ
 ざれ蚊の声小牙を刺。うら。堪うぬ。うら。ぼひ。む。猪折戸乃

朽でもりうくとく。さす。零餘子のりとせが。やうく。もり。死
 敷せり。斯くのあやうき。電王高く吠く。か。又。在。
 電王が系て。と呼門ハ。を。と。深張の團扇半より三郎ハ
 端らう。ま出る。裾縫たる麻衣の汚きめある者ら。の。艱住居の敷
 待も。さ。自在鉤曲突の頂あひ火気あり。昨夜のあやの蚊遣
 草。焼。えて。暑。當下黒居三郎ハ團扇より埃を掃
 け。電王を呼のぼり。対坐く。僧都遠流の。り。つ。も
 敷。子。お。は。の。三國は還道。と。夜。日。あ
 継。き。の。王。か。を。女性。幼。冊。見。の。
 一人ハ嶋中。も。おん供。つ。君思。は。報。と。忽。地。來。
 ま。な。夏。の。馬。主。の。臣。下。し。時。七。年。が。同。洪水。を。お。



三十一



渡海を
伴ふ
亀王
故郷に
到る

後實卷之三

三十二

のりよ。三つびその門を過る。又さう由そめめざりしを。後すまぐも
 稱よふゆめも。今仕木の家を喪ふ猶のぶ。君家危急存亡の秋
 るるふ。親を訪ふもさう成る。これ洛の制度を皆自より。夜の通
 宵。昼の終日執行のつらさなり。夫人姫君。彌君のめん敷。さあめ
 ぐやゆめ。とるふ。只は木見。か入。勝る忠義を尽す。雪中の
 松枯野の竹。操をえらる。のたをり。朽き。を。舉動。さ。と。云。一。み
 めひ。三。つびの食。由。頃。日。の。さ。著。の。さ。り。洛の景。跡。の。さ。や。
 三。つ。小。膝。を。さ。め。耳。さ。う。と。ん。と。電。玉。の。面。目。さ。さ。み。改。を
 擡。む。や。や。あ。さ。う。と。さ。う。要。金。完。く。整。正。の。ね。が。ま。思。ふ。と。ど。も。三。國。は
 日。を。さ。し。主。の。囚。ま。り。日。は。多。り。ゆ。め。の。さ。は。律。果。て。走。の。ゆ。り。一。物。よ。夫。人
 姫君。彌君のめん。仕。方。も。さ。さ。む。京。極。の。宿。知。鹿。谷。の。山。莊。の。さ。六。波

罹より人を降る。と。え。が。主。由。さ。さ。天。よ。叫。び。化。よ。あ。く。れ。千。遍。悔
 ても。及。が。ぬ。幸。る。と。腹。を。切。ら。ん。と。ん。必。ひ。定。ま。ゆ。い。か。せ。え。く。え。隠。れ
 あり。た。嶋。へ。めん。供。せん。の。を。と。め。ひ。う。主。君。の。船。出。を。待。び。び。度
 の。大。渡。み。く。見。糸。一。追。立。の。官。人。か。めん。程。を。愁。許。せ。し。嶋。へ。と。の。許
 さん。む。さ。う。ぬ。と。宣。つ。る。主。の。仰。は。悖。ぐ。て。別。は。あり。夫。人。彌。君
 の。往。方。を。索。る。ん。か。ゆ。些。の。便。を。得。む。ゆ。め。せん。と。る。は。隨。よ。一。ト
 じ。び。又。よ。音。耗。と。安。否。を。同。身。の。暇。を。さ。う。え。ん。為。さ。さ。う。つ。と。コ。が
 非。を。掩。ふ。も。老。う。る。親。よ。志。が。一。と。も。又。物。を。あ。せ。と。さ。る。子。の。穢。と。の
 志。む。さ。三。郎。の。ほ。ぐ。と。嘆。息。一。三。國。の。め。し。由。主。命。る。れ。か。彼。日。よ
 素。の。ゆ。め。も。その。汝。が。恨。み。の。ゆ。め。女。性。幼。息。の。蟻。王。が。冊。を。さ。ら。む。
 とも。め。く。ゆ。め。世。を。潛。む。一。さ。ん。軟。の。水。江。へ。伴。ひ。進。ぶ。せ。る。の。領。主

見え 千金と云くバ。その思ひの高し。あつたよあん。又孝公あつて。二親の薬
 の價は賣し。し。身を触る。三國へ。使る。バ。どうも。家
 へ。坐せよ。あ。女子を。養ひて。世は。老の。一得。まは。は
 つ。絆の。因果を。観。れ。龜王。か。京。上。り。せ。り。已。前。日。れ。あ
 又。を。彼。は。結。髪。之。妹。長。の。後。妻。を。中。と。あ。ひ。る。が。と。遂。は。果。さ。る。二。男
 蛭。王。ハ。主。君。謀。し。あ。ひ。て。安。良。子。と。あ。は。る。侍。女。を。妻。せ。れ。と。あ。ぬ。る
 の。と。あ。く。の。ま。ご。め。の。ど。り。君。家。よ。の。あ。く。バ。龜。王。ハ。法。持。寺。の。一。の。預
 け。も。あ。り。あ。づ。れ。ど。今。ハ。その。中。も。他。と。り。あ。ん。が。り。龜。王。を。夫。と。拜。眉
 此。れ。を。舅。と。あ。ぶ。て。を。嫌。む。目。今。妹。夫。の。縁。ハ。締。し。あ。ん。身。を
 三。郎。が。預。り。て。家。は。養。ひ。龜。王。の。夫。人。彌。君。の。あ。ん。在。家。を。索
 せ。し。し。の。ふ。兼。引。の。り。ん。や。と。し。と。信。中。の。あ。づ。れ。が。あ。ま。違。ハ。親。の

